

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200541		
法人名	株式会社 グロリアコーポレイション		
事業所名	グループホーム めぐみの丘		
所在地	兵庫県神戸市西区押部谷町福住602-5		
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆さまの個人個人を尊重し、家庭的で、我家kと思えるような暖かいホームを目指しています。食事に関しては、手作りを基本とし、体に優しい栄養満点の家庭料理を提供するように、心がけています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念に基づく運営・・「個人の尊厳が保たれ、地域において生涯その人らしい生活を送れるよう支援すること。又、その家族も安心して日常生活や社会活動に従事出来るよう支援すること。」を事業所理念とし、入居者個人の尊厳と本人本位の生活が行え、家族も安心できるホームとなるよう管理者・職員が一丸となって支援している。 ②生活を楽しむ・・『食事』においては、入居者と職員が食材の買出し、調理、盛り付け、配膳・下膳、片付け等を協働し、全食手作りで時空間を共有している。入浴は、ゆっくと本人のペースに合わせ、湯温、入浴剤等も希望を聴き、職員との語らいの時間ともなっている。また、定期的に来られるパンの訪問販売では、入居者が好きなものを選び(購入し)、あれこれと話しながらの楽しい時間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を掲げ管理者、職員はその理念を共有し理念の実践に向け日々取り組んでいる	「個人の尊厳」「地域において」「その人らしい」「家族も安心」を運営の柱として管理者・職員が入居者の共同生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	教会のバザーに招待いただいたり、近隣の方からはお花を頂いたり、交流する場は増えてきている。	散歩の途中での近隣の方々との会話や地域ボランティアの協力(レクリエーション等)、ふれあい町づくり協議会主催のふれあい交流会への参加や押部谷教会のバザーに出向いたりしている。事業所主催の行事へも地域の方々が参加している。	地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を更に勘案されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に散歩に出かけ挨拶を交わす、バザーに参加、スーパーと一緒に出かけたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者、利用者家族様の出席を仰ぎサービスの実際や評価への取り組み状況について説明し、ご家族様からは利用者様への対応に関する要望を聞かせて頂きサービスの向上に努めている	運営推進会議では事業所の現況(入居者の様子、行事、リスクマネジメント等)を報告し、参加者(民生委員)からは地域との交流を促されたり、家族からの要望を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や困難事例(介護面・医療面・日常的な支援等)が生じた場合には、介護指導課に連絡をとり、助言を頂いている。	区のグループホーム連絡協議会(年4回)に参加し、行政職員、同業者と連携・交流している。市職員とは種々の相談(医療面、日常の支援等)を行い緊密な連携をはかっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が具体的にどのような行為が身体拘束にあたるかを正しく理解できるよう研修の機会を持ち、理解を深め、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新設されたホームでは、鍵はつけていない。	「ヒトとしてのあるべき普通の生活」に制約がかかった時点で身体的拘束等である、との認識の下、日常の動きのなかで拘束等が生じない様職員が相互に確認し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は月1回開く全体会議において勉強会をもちケアマネを中心として虐待防止の意識を共有し事業社内での虐待防止の徹底に努めている	高齢者虐待に繋がる「不適切なケア」がなされないよう職員相互に高い意識をもち取り組んでいる。月例の全体会議では、職員とのコミュニケーションを高めストレスマネジメントも実践している。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には身寄りの無い方も含まれており権利擁護に関する制度については職員も理解と活用の必要性を認識している。それらを活用できるよう今後取り組んでいきたい	日常生活自立支援事業を活用している入居者がおられる。他の入居者(身寄りのない方が多い)への支援策の一つとして全職員が制度の理解と活用の支援ができるよう整備する必要性を感じている。	権利擁護の所管である地域包括支援センターに協力を仰ぎ、制度の全体像から具体的な事例等まで一貫した学習会を開催されてはいかがでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族様や身元引受人に対しては入所時に重要事項説明書を用い十分な説明を行いまた質問にも答えて理解、納得を図った上で契約を結んでいる。書類には確認のため署名捺印をもらっている	入居にあたり、計画作成担当者が本人の状況等を把握(面談等)すると共に、入居後に不安や疑問等が生じない様充分な説明と理解を得た上で契約を締結している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様からの意見、要望には運営者はじめ管理者や職員はその都度耳を傾け希望に添えるよう努めている	入居者本人からは直接意見を伺う機会を設け、家族からは、運営推進会議や来訪時に聴き取っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり月1回の全体会議を開き原則全員の職員が参加しその場で意見の交換を行い、管理者はその意見や提案を運営に反映させるよう運営者にも伝えている	職員からは、月例の全体会議での意見具申や申し送りノートへの記入を通じて集約している。挙がった意見に対しては必ずフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況は把握しており、それぞれの勤務に対する要望にも出来るだけ答えるべく職場環境・条件の整備に努めているし、運営者にも報告し各自が向上心を持って働けるようサポートしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の指示で外部の研修に参加する機会を持っている。また個人的に資格取得のため勉強を続けている者に対しては実習等への参加には出勤調整などの便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1回開かれる西区のグループホーム連絡会に参加し情報交換と交流を図っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの時点で家族様から困りごとほか話をうかがっており、その後ご本人の訪問を受け信頼関係を築き納得の上入所して頂いている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた時点で管理者や介護支援専門員は家族様から詳しく入所を必要としている状況を聞き取ることになっている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所を希望されている方であっても施設のハード面においてどうしても対応出来かねると判断した場合はその旨を伝えて、他の施設、他のサービスを利用してもらえるようお願いしている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごせる時間をもち利用者の気持ちに沿えるよう支援している。利用者から教えてもらったり手助けしてもらおう場面もある。そのような支えあう関係が築けるよう努力している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも利用者を共に支える関係でありたいと連携を密に取るよう努めている。誕生会や行事には参加を呼びかけ共にくつろぎ交流を深めている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある調度類や食器を使用していただき、居室で落ち着けるよう心がけている。	個人の生活歴を踏まえ、馴染みのある食器類を使用していただいたり、写真や調度類を居室に置き、今までの暮らしの延長線上に『今』があるよう図っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士が良い関係を保ち助け合ったり支えあったりしている時はそっと見守り、悪い時にはその場を円満に取りもつよう間に入り修復に努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が長期にわたり入院し、ホームを退所扱いになっても、その後の受入先を捜すなど良好な関係を続け支援している。住民票を残してあるある場合には荷物や郵便物を保管したりもしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様から情報を得たりご本人との会話の中でその方のホームに対する思いや希望などを把握するようにしている	入居者個々人との会話(特に入浴時にゆっくりと)や仕草や表情から本人の思いや志向を把握し、職員はケース記録や申し送りで情報を共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで御家族様からお聞きしたり日々の生活の中でご本人の口から語られることによつて把握することが出来る		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をしていく中でその方の現状はケース記録に記入されその記録を元にケアカンファレンスを開き把握した情報は職員間で共有するよう努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、随時のミーティング、ケアカンファレンス等開き関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデア、家族様の意向をも反映させた介護計画を作成している	本人の思いや志向をベースに家族の要望等と職員よりの現況情報に基づき介護計画を作成している。	現行介護計画と入居者の現況との整合性確認を職員と共に月次でのモニタリングを実施されてはいかがでしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫など利用者個別のケア記録に記入し、申し送りノートに記入するなど職員間で情報を共有しながら実践をし、介護計画の見直しにも活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ぬり絵をコンテストに応募したり、趣味の園芸を行ったり、それぞれのニーズに沿ったサービス提供に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会・民生委員が主催している近隣のグループホームとの交流会に参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時には24時間連絡の取れるかかりつけ医があり、ホームとは信頼関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	協力医(内科)による月1・2回の往診に歯科の訪問も受けている。24hオンコール体制を敷いており緊急時にも安心である。他科目の受診同行は家族に協力いただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はホームとしては雇用していないが、日常の介護現場でとらえた情報や気づきは其の都度かかりつけ医に伝え相談し適切な指示を受けられるよう支援している		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会をし家族とも出会い本人の状況を正確に把握するよう努めている。なお退院に当たっては関係者病院の相談員等カンファレンスを行い情報の交換や相談に努めている	入院中は、入居者の不安感を軽減するため職員が頻度をあげた面会を行っている。病院とは、退院後の生活に不具合が生じないよう連絡を密にしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全体会議などにおいて、重度化した方の対応を話し合い、ご家族とも相談している。	事業所で「できる事、難しい事」を明確にし、家族とも相談しながら本人にとって望ましいケアとなるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えて年2回の訓練以外にも、自主的な消化訓練や避難訓練を行っている。夜間の災害に対しては地域の方々の協力が必要であるため協力が得られるよう日々働きかける必要がある	消防署立会の訓練(年2回)以外にも消火・避難訓練を独自に行っている。夜間帯想定訓練が今後の課題となっている。	夜勤職員の参加のもと、夜間帯想定訓練の機会を定期的に設けられることに期待を致します。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の呼びかけ、失禁時にはプライドを傷付けない言葉掛けや対応に心がけている。又入浴時には異性に対する羞恥心に配慮した対応をし、個人情報の取り扱いにはイニシャルを使用するなどプライバシーの確保に努めている	本人本位(その人らしい)を念頭に、個人の尊厳(自尊心)及び羞恥心に配慮した言葉がけや対応を行なっている。また、個人情報の保護へも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは出来る限り会話の中で自分の思いを表せるよう働きかけ、行事に参加する場合も本人の意思を尊重し、本人が自分で決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の流れの中でもその人のペースを大切にし、食事、排泄、入浴、就寝等拒否があったら無理強いしない。声掛けをするうち本人が納得して応じられるまで待ち、本人にとって心穏やかな生活が実現できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何か行事がある時には女性は薄化粧を施し、みながそれを楽しみにしている。家族さんと美容院に行ったり、ホームで毛染めを行ったり、他は定期的に出張美容を利用している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材切りや盛付け、配膳等もお願いしている。食事は職員と共に隣り合って楽しんで頂きまた食器洗いや後片付けも共同で行っている。声掛けはするが利用者様の自主性に任せ無理強いはしていない。	食材の購入、調理、盛付け、配膳・下膳、片付け等入居者の得意な部分を職員と協働し、『食』を有意義なものとしている。外食(天ぷら、寿司等)も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量、水分摂取量をチェック表に記入し、必要量を確保出来るよう努めている。食べる量や栄養バランスを確保するよう献立をたてているが摂取量が足りないときは形状を変えて飲み込みやすくするなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はそれぞれの利用者の口腔の状況に合わせて歯磨きや義歯の洗浄等、口腔内の清潔保持を支援している		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとの排泄のパターンを把握し自然な声掛けにより排泄を促すことを心がけている。排泄の失敗による自信喪失を防ぐようさりげなく処理をするなど気をつけている。出来る限りトイレでの排泄を支援している	入居者個々人の排泄パターンやそのサイン(仕草や表情)を把握し、できる限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の日々の排便の状況を把握しており、便秘を予防するためヨーグルトや野菜を多く摂取するよう工夫し、また排便の兆候を見逃さずトイレへ誘導するよう支援している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴を原則とし、個々のペースに合わせ、湯加減も状態に合わせて調整している。入浴時は、普段聞けない話題になる事もあるので、コミュニケーションを図る場ととらえている。	週2回の入浴を基本とし、湯温や入浴剤等希望に応じている。ゆっくりと入っていただき本人とのコミュニケーションをはかる良い機会となるよう取り組んでいる。季節湯(柚子湯等)も楽しませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、生活のリズムを作るよう心がけている。その中で気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。居間でウトウトされていたり、入浴後部屋でゆっくり休んでもらったり、御自分から部屋に戻られて休まれる時もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書やお薬手帳などを元に利用者1人ひとりの服薬の状況を把握しており薬の種類、用量等間違いの無いよう確認して薬箱にセットし処方どおりの服薬を支援し、又服薬による症状の変化を観察し医師に報告するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた手伝い(掃除・洗濯・調理・後片付けなど)をお願いしているが、自主性に任せ決して無理強いはしていない。日課として張りのある生活の一部となっている。日課の中に体操や運動を取り入れている。外出や誕生会などの行事で気晴らしの支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食材の買出しには、利用者の方と一緒にいるが、その他の個別外出については、家族対応のみである。	食材の買出しの他、中学校での運動会や音楽会へ出向いたり、近くの同業者の入居者とも交流している。紅葉狩りや花見(桜等)も楽しみ事となっている。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後も、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パン移動販売時、個別にパンを選び、ご自分でお金を支払っていただいている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等に御自分で電話されることもあるし、電話したいと言われる場合には職員がお掛けして取次ぐこともある。手紙についてはご本人の希望で年賀状の宛名を代筆したり支援している		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自分たちで作った月ごとの壁面を飾ったり、季節の花を飾って、季節感を取り入れている。	共用空間には、季節の飾り付け(入居者作品)が掲示され、程よい採光のなかゆったりと過ごしている。菜園での花植えや野菜づくりは四季の移ろいを感じるのにも効果を発揮している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチがあり、日光浴をされる利用者の方もおられる。利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にベッドやたんすなど使い慣れた家具や備品を持ち込んで頂き、写真や趣味で作ったぬり絵やパズルを飾り個人の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している	使い慣れた馴染みのあるもの(家具、ベッド、備品等)を持ち込み、写真や作品を掲示し居心地のよい自分の居室となるよう支援している。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には名前のプレートを置き、居間やトイレの場所は分かりやすく張り紙をするなど混乱や失敗を防ぎ安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している		